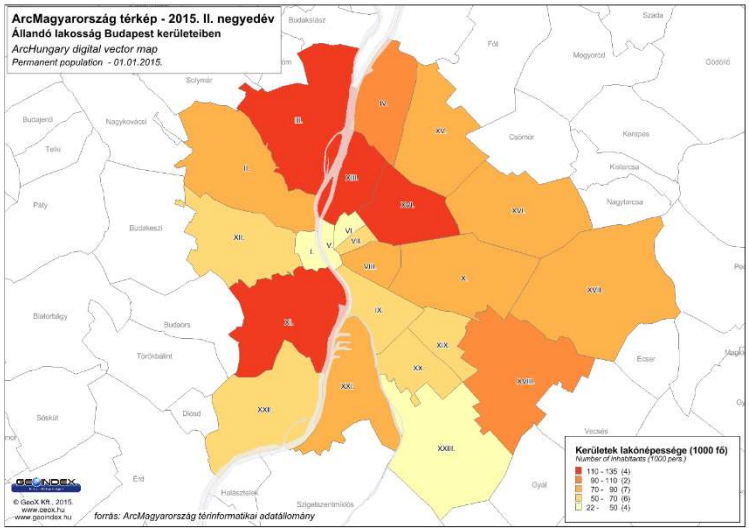
ブダペスト９区のガイドブック

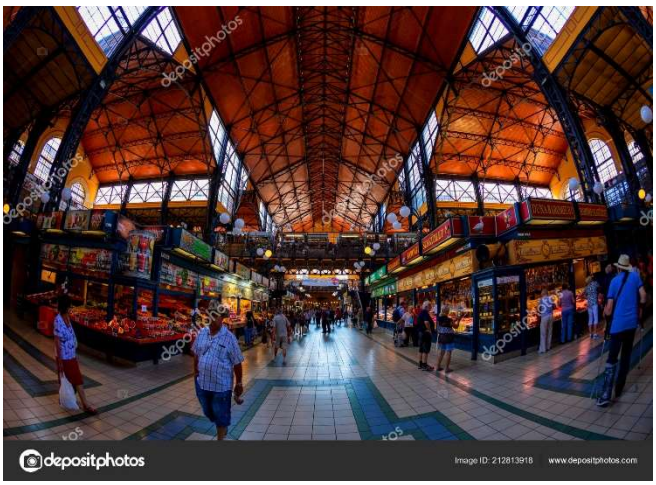
このガイドブックでブダペストの９区を紹介させていただきます。その地区はフェレンツヴァーロシュ(Ferencváros)としてもよく知られています。フェレンツワーロシュという歴史的な名前の由来は１７９２年にフェレンツ１世がハンガリーの国王になったという昔話に関係があるそうです。

ブダペストの９区は都市のペスト側の西の方、ドナウ川の川岸に位置しています。地図の上では 5 区、8 区、10 区、19 区、20 区、ドナウ川に囲まれています。面白いことにフェレンツヴァーロシュの北のほうはブダペストのにぎやか都心部ですが、19 区と 20 区の近くは既に郊外です。

Wikipedia によると９区の人口は大体６万人で、広さは１２,５３平方キロメートルだそうです。９区はその人口と広さから、ブダペストの小さい区の一つとされます。しかし、９区は観光スポットで豊かな街ですから、観光客は一年中多くて、街の低い人口が全然見えません。



ブダペスト９区で一番人気がある観光スポットはもしかすると Fővám tér に位置している中央市場かもしれません。1897 年に建てられて、1994 年に再建された中央市場はほとんど一年中観光客だけではなく、地元の人も訪問します。もちろん、ブダペストでは色々な市場があるのですが、地元の人は普通もっと安い郊外にある市場に行きがちです。



都心部の中央市場で観光客は野菜や肉や果物を買うだけではなくて、伝統的なハンガリー料理を食べてみたり、ハンガリーの伝統的な衣装を買ってみたりすることができます。地下のフロアーに魚介類を売っている屋台が並んでいます。

1980 フォリントは約 709 円に当たります。

400 フォリントは約１４３円に当たります。

住所: 1093 Budapest, Vámház körút 1-3.
（カーロリ大学から歩いておよそ１０分）

中央市場以外のおススメのところはドナウ川に沿って走っている2番の市電です。初めて走ったのは第二次世界大戦の終わり、1945年8月の時でした。9区から5区まで、ずっとブダペストのきれいなドナウ川の川岸に沿って走っています。Közvágóhíd からJászai Mari tér の方に走っています。乗っている際には、いろいろな橋はもとより、国会議事堂も、ブダ城もよく見えますので、ぜひ乗ってみてください。そしてクリスマスの時、ライトアップされます。

ブダペストの様々な温泉の中でDandár温泉が9区の南に位置しています。1930年にできて、1978年に再建されたDandár温泉は、ブダペストの一番有名な温泉というわけではありませんが、落ち着いた雰囲気とデザインのおかげで、一年中大勢の人が訪れます。ただのプールが1つ、関節の治療に効く温泉が四つもあるそうです。ぜひ行ってみて、さっぱりしてください。

住所: Budapest, Dandár u. 3, 1095

入場料: 2000フォリント(715円)

昔、現在のフェレンツィヴァーロシュには、色々な地方自治体がありました。１８世紀に現在の Ráday 通りと Lónyai 通りの間に町ができましたが、その地域が１７９９年のドナウ川の洪水で完全になくなってしまいました。再建された木材のビルは１８３８年にもう一度壊れてしまいましたから、次にはもっと頑丈のビルだけではなくて、川岸に沿って堤防も建てられました。

１９世紀の後半はフェレンツヴァーロシュでの圧倒的な工業化の開始でした。ハンガリー最大の食肉処理場、５か所に製粉所、現在も残る公共倉庫（現在は Közraktár utca にある）ができました。現在のブダペストの主な観光スポットの一つである中央市場もそのときできました。

トルコ支配の間に、人が住んでいなかったそうです。トルコの支配が終わった後、この地域の人口も徐々に増加しました。第一次世界大戦の敗戦のせいで、９区で予定された近代化が実現できませんでした。このため不動産の問題が解決できず、空いているアパートが足りませんでした。近代化の代わりに、当時の一番大きなスラム街の一か所ができました。そこに軍人や移民の一家が住んでいました。

第二次世界大戦の際は、９区が主に工業のエリアだったため、戦災はかなり大きかったです。戦後、地区が再建されて、

József Attila lakótelep というブダペストで現在最も評価が高い団地もできました。私はそこで育ちました。

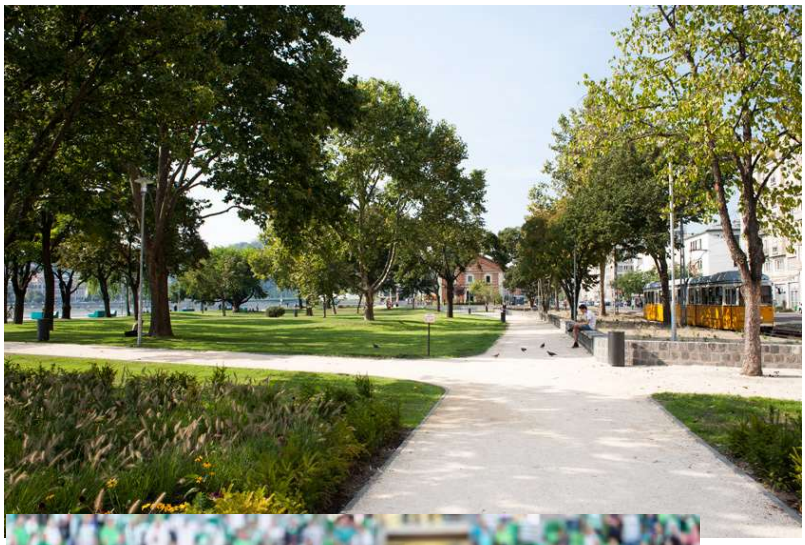
1950 年代

2010 年代

現在、フェレンツヴァーロシュは色々な公園とか、FTC というスポーツクラブで、ハンガリーでも最も有名な地区だと思います。

Boráros tér から歩いて 5 分ぐらい。

Nehru part の位置によってブダペストの都心部の素晴らしい景色だけではなく、緑も十分楽しむことができます。



(サボー・ペーテル)